

平成 31 年度予算主要事業の概要 (事業別説明資料)

消防本部



* 元号の表記について

「平成」は平成 31 年 4 月 30 日までとなりますが、新しい元号がまだ決定していないため、本冊子においては同年 5 月 1 日以降についても「平成」により表記します。

目 次

地域消防力の強化	1
救急活動体制の強化	2
消防職員確保対策の推進	3
ジュニア・パラメディック・プロジェクト	4
防火水槽・消火栓の整備	5
消防団の加入促進	6
消防用設備等の整備促進	7

拡充 地域消防力の強化

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】														
60,132	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">県補助金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">5,000</td> </tr> <tr> <td>緊防債</td> <td style="text-align: right;">40,900</td> </tr> <tr> <td>ふるさと創生基金</td> <td style="text-align: right;">8,900</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">5,332</td> </tr> </table>	県補助金	5,000	緊防債	40,900	ふるさと創生基金	8,900	一般財源	5,332	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">工事請負費</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">20,200</td> </tr> <tr> <td>備品購入費</td> <td style="text-align: right;">30,568</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">9,364</td> </tr> </table>	工事請負費	20,200	備品購入費	30,568	その他	9,364
県補助金	5,000															
緊防債	40,900															
ふるさと創生基金	8,900															
一般財源	5,332															
工事請負費	20,200															
備品購入費	30,568															
その他	9,364															
(前年度予算 45,209)																

2 事業背景・目的

平成30年9月に発生した豪雨災害時においては、市内においても大規模な避難勧告等の発令や、河川の氾濫、道路の寸断など大きな被害に見舞われましたが、消防団員による迅速な避難誘導や河川状況の確認等、第一線での活動にご尽力いただきました。こうした状況から、平成30年度内には、消防団員の安全を確保するため救命胴衣などの装備品の整備をおこなったところです。

平成31年度は、装備品の整備を更に充実させるとともに、災害現場に必要な知識や技術の向上と各消防署と消防団の連携強化を図り、あわせて、地域の孤立対策等を進め、地域消防力の強化を図ります。また、飛騨市消防団では、現在ポンプ車及び積載車を53台保有していますが、地域の安心、安全を確保すると共に、消防団員の安全かつ迅速な活動を推進するため、車両を適切に維持管理しながら更新計画に基づき定期的に更新をおこないます。

3 事業概要

① 【新規】消防団装備の充実強化 (8,900千円)

消防団員へ防火衣及びレインウェアを計画的に配備します。

② 【新規】消防団と飛騨市消防本部による合同訓練の実施

古川方面隊及び神岡方面隊は、住宅密集地火災の対応。河合方面隊及び宮川方面隊は、住宅火災に対する消火訓練等を実施します。また、引き続き水防対応訓練を実施します。

③ 【新規】山之村地区ヘリポートの整備 (20,200千円)

山之村牧場向かいの第2駐車場にヘリポートを整備し、救急搬送や災害時の物資輸送等に活用します。

④ 【継続】消防団車両の計画的更新 (31,032千円)

古川方面隊高野、河合方面隊上村、宮川方面隊巢之内の小型動力ポンプ及び積載車を更新し、神岡方面隊保有のポンプ車(大和)1台を積載車に変更し更新します。

(款)	9 消防費	(項)	1 消防費	(目)	1 常備消防費 2 非常備消防費
所 属	消防本部総務課 TEL0577-73-0119			予算書	P.113～115

拡充 救急活動体制の強化

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】												
29,537	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">国庫支出金</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">11,896</td> <td style="width: 33%;">車両購入費</td> <td style="width: 33%; text-align: right;">21,473</td> </tr> <tr> <td>過疎債</td> <td style="text-align: right;">12,400</td> <td>備品購入費</td> <td style="text-align: right;">7,471</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">5,241</td> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">593</td> </tr> </table>	国庫支出金	11,896	車両購入費	21,473	過疎債	12,400	備品購入費	7,471	一般財源	5,241	その他	593	
国庫支出金	11,896	車両購入費	21,473											
過疎債	12,400	備品購入費	7,471											
一般財源	5,241	その他	593											
(前年度予算 15,170)														

2 事業背景・目的

傷病者の救命率向上には、現場から医療機関に搬送する間の救急救命士が行える救命処置拡大に加え、質の高い心肺蘇生等が可能な機器の導入による救急体制の強化が課題となっています。

このため、平成30年度には、救急救命士の養成と、気管挿管、薬剤投与など高度な救命措置ができる認定救急救命士の育成を進めるとともに、自動式心臓マッサージシステムを新規に導入しました。

平成31年度も引き続き人材育成とあわせ、車両や機器の更新を計画的におこないます。

3 事業概要

① 【拡充】高規格救急自動車の更新 (29,083千円)

神岡消防署に配備されている高規格救急自動車が、運用開始から13年経過し老朽化していることから、今回、車両及び資器材を更新します。

② 【継続】認定救急救命士の養成 (454千円)

救急業務の高度化と質の向上を目指し、高度な救命処置（気管挿管、薬剤投与、処置拡大）ができる救急救命士を、それぞれ15人を目標に養成します。

《認定救急救命士数》平成30年11月現在

- 気管挿管 7人
- 薬剤投与 15人
- 処置拡大 10人

(款) 9 消防費	(項) 1 消防費	(目) 1 常備消防費	
所 属	消防本部救急課 TEL0577-73-0119	予算書	P. 113～114

拡充 消防職員確保対策の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】								
1,427	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">公共施設管理基金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,000</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">427</td> </tr> </table>	公共施設管理基金	1,000	一般財源	427	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">設計委託費</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,380</td> </tr> <tr> <td>費用弁償</td> <td style="text-align: right;">47</td> </tr> </table>	設計委託費	1,380	費用弁償	47
公共施設管理基金	1,000									
一般財源	427									
設計委託費	1,380									
費用弁償	47									

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

全国の消防機関では、女性職員の比率を全体の5パーセントに引き上げることを共通目標として、女性職員の獲得に向けた取り組みを行っています。飛騨市消防本部では、女性職員数2名を目標とし、中高生に職業説明会を行い、消防職の魅力を発信する取り組みを行っています。しかし、飛騨市消防本部各署には女性職員用施設（浴室等）がないため、女性職員が働きやすい環境とは言えない状況であり、女性職員用施設の整備を行い女性職員が働きやすい環境を整えます。

3 事業概要

① 【拡充】飛騨市消防本部職員の獲得推進（47千円）

中高生や専門学校生、大学生を対象に消防職の魅力をアピールし、有能な職員の採用につなげます。また、女性職員の採用に向け、新たに県内外の現役女性消防職員3名程度を招聘して、市内の中高生を対象に、消防で働く女性の実情をお話いただくほか、参加者との意見交換会を実施して、地域に根ざした人材の確保を目指します。

② 【新規】古川消防署女性職員用施設の整備の設計委託（1,380千円）

古川消防署2階の一部を改修し、女性専用施設（仮眠室、浴槽、トイレ、ランドリー）を整備するための設計業務をおこない、次年度以降の改修に備えます。

(款)	9 消防費	(項)	1 消防費	(目)	1 常備消防費
所 属	消防本部総務課・救急課		TEL0577-73-0119	予算書	P.113

継続 ジュニア・パラメディック・プロジェクト

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
100	一般財源	100 備品購入費

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

この事業は、小学4年生から中学2年生までの5年間を1サイクルとして、段階的に到達目標を設定し、心肺蘇生法を実施、指導できる児童、生徒を育成することを目標としています。

平成25年度の試行を経て、平成26年度から本格的に事業を開始し、平成30年度に1サイクルの5年が経過しましたので、これまでの取り組みを検証し、より良い形で継続的に事業を展開していきます。

3 事業概要

事業には、各学年の授業時間を活用し、小学4、5年生は1時間、6年生と中学生は2時間の授業を、各学校の体育館などでスライドやDVDを見ながらおこないます。

- 小学4年生：命の大切さについてグループディスカッション
- 小学5年生：119番通報や呼吸の確認
- 小学6年生：胸骨圧迫（心臓マッサージ）とAEDの取り扱い
- 中学1年生：発見からAEDの取り扱いまで一連の行動
- 中学2年生：胸骨圧迫（心臓マッサージ）の指導とAEDの取り扱い

今回は、講習に使用する音響設備が、経年劣化により不具合が生じているため、新たに更新します。

(款) 9 消防費	(項) 1 消防費	(目) 1 常備消防費	
所 属	消防本部救急課 TEL0577-73-0119	予算書	P.113

継続 防火水槽・消火栓の整備

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
7,320	分担金	382	工事請負費	5,000
	一般財源	6,938	負担金	2,320

（前年度予算 6,750 ）

2 事業背景・目的

各地域における防火水槽や消火栓は、火災発生時の消防団や消防署による消火活動に必要な不可欠な設備です。

このため、経年使用により発生する亀裂が原因で水漏れが確認された防火水槽や老朽化による使用不能な消火栓について、地域の意見も踏まえながら新設・改修をおこない、市民の安心安全を確保し地域防災力の向上を図ります。

3 事業概要

① 防火水槽の修繕（1,500千円）

- ・古川町野口

② 消火栓の新設（2,320千円）

- ・神岡町東町（白山地内）
- ・古川町信包

③ 消火栓の修繕（3,500千円）

- ・神岡町丸山
- ・神岡町船津（千歳地内）
- ・緊急修繕工事

(款)	9 消防費	(項)	1 消防費	(目)	2 非常備消防費
所 属	消防本部総務課 Tel.0577-73-6198			予算書	P.115

継続 消防団の加入促進

1 事業費（単位：千円）

【財源内訳】

【主な使途】

ゼロ予算

（前年度予算 0 ）

2 事業背景・目的

飛騨市消防団は、地域防災の中核的存在として地域防災力の向上に大きな役割を果たしており、平成30年7月の豪雨災害においても、避難誘導や現場確認など多岐にわたる任務を担っていただきました。しかし、近年全国的な消防団員の減少が続いており、飛騨市においても新入団員の確保が困難な状況にあります。消防団が期待される役割を果たしていくうえで団員確保は非常に重要となっています。

そこで、多彩な人材を多様な方法で確保し、市民の「安心・安全」確保のため地域に密着した活動を展開していきます。

3 事業概要

① 消防団協力事業所表示制度

従業員の消防活動への便宜や入団促進など、協力いただける事業所と協力体制を構築することにより、地域防災の一層の充実強化を図ります。

- ・市内事業所への広報活動による加入促進。
- ・県で実施している「消防団協力事業所支援減税制度」、「消防団員雇用貢献企業報奨金制度」の広報と活用推進。

② 消防団員加入促進

- ・市内で行われる各種イベントにおいて消防団活動のPRと募集活動をおこないます。
- ・各種媒体（広報誌・ポスター・市内回覧）での広報活動を継続的に実施します。

(款)	—	(項)	—	(目)	—
所 属	消防本部総務課 Tel0577-73-6198			予算書	—

継続 消防用設備等の整備促進

1 事業費（単位：千円） 【財源内訳】 【主な使途】

ゼロ予算

（前年度予算 0 ）

2 事業背景・目的

昨今、住宅や事業所、商店などにおける火災により、死者が出るケースは後を絶ちません。飛騨市においては、近年、死者を出す火災はありませんが、今後も更に高齢化が進むことから、防火・消火設備の設置は非常に重要となっています。

このことから、住宅やアパート、飲食店や工場などにおける法律などで義務付けられた整備の啓発や指導を引き続きおこない、市民の安全安心を守ります。

3 事業概要

① 住宅用火災報知器の周知

- ・管内及び全国規模での奏功事例や未設置による災害事例を用い、未設置世帯への設置に向けた啓発をおこないます。
- ・火災の時にきちんと作動するように、定期的な点検の方法や、電池や本体の交換時期などについて周知を図ります。

② 事業所等における設備整備の指導強化

- ・定期的な立入検査により消防法違反、違法増改築、設備違反などを早期発見、早期指導、また、現在把握している違法施設への指導を強化します。
- ・消防に相談なく開業する施設や、法律の改正に伴い新たに消防用設備が必要になった施設を検索、早期に指導し、消防法違反の未然若しくは、早期に改善します。

(款)	—	(項)	—	(目)	—
所 属	消防本部予防課 TEL0577-73-6199			予算書	—